

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成22年6月1日
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所		
所在地	(〒254-0012) 平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年2月24日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設より7年目になります。ご利用者様は、なじみの関係ができ、ゆったりと穏やかに暮らしています。看取りを希望されている方もあり、お互い支え合って生活しています。地域から理解を得られるようになり、地域行事に参加の時など、ご協力を頂いています。地域ボランティアによる民謡の会・幼稚園の発表会へのご招待など、地域の方々と交流を深めています。また、買い物・散歩等、外出の時に「子供みまもり隊」のジャンパーを着て、地域ボランティアに参加しています。職員のチーム力を高めるため、法人の理念を基に職員全員で、各ユニットの理念作りを行い、同じ目標を持つてケアを行っています。常に学ぶ姿勢を大切にし、ケアの向上に努めます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月21日	評価機関 評価決定日	平成23年7月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所概要】 この事業所は、JR平塚駅、小田急本厚木駅からバスで20分、バス停から徒歩で3分程の住宅地にある。近くには、神社やスーパーマーケットがあり、利用者が散歩や買い物に利用している。建物は鉄筋2階建てで、室内はバリアフリー仕様となっている。「悠悠苑」の名の通り「ゆったりと」「心穏やかに」などの理念を大切にしている。
【研修の充実】 22年の4月から月に1回、「介護道場」と名付けた研修を行っている。研修では、介護者に負担のかからない移乗の仕方や、誤嚥防止のための正しい姿勢、とろみのつけ方など新しいケアの知識や技術を習得している。また、利用者それぞれに合った個別のケアを提供するために、介護の専門家に一日を通して事業所にいてもらい、一緒に日常業務をやりながら、ケアの場面で日頃から迷っていることや疑問に思っていることについて、実際にその場で模範を示してもらったり、共に考え助言をもらったりしている。その様子を写真に撮って、利用者それぞれに対応したマニュアルを作成し、統一したサービスの提供に役立てている。
【地域との交流】 盆踊りや公民館祭りなどの地域の行事に参加している。町ぐるみ大掃除や地域の防災訓練、子供見守り隊などの地域活動にも参加して、地域の一員としての役割を果たす取り組みをしている。特に、利用者が買い物、散歩などの際に子供見守り隊のジャンパーを着て参加するボランティア活動は、事業所や利用者を広く知ってもらえる機会であり、利用者の励みにもなっている。事業所が主催する「悠悠苑まつり」では、模擬店を出したり、利用者のカラオケや職員の余興を披露して、地域の人々とのかかわりを深めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、復唱している。また、名札の裏に記載し、いつでも確認できるよう配慮している。職場内でも、明るく穏やかにを基本に実践している。	今年度は、法人理念を職員それぞれが掘り下げ、具現するために、ユニットごとの理念を作った。自分が「されたくないこと」「してくれたらうれしいと思うこと」について、時には利用者も参加しながら話し合いを行った。「地域の活動に参加」「笑顔で接する」「その人らしさを大切に」など職員全員の意見が反映された具体的な理念となった。職員は、この作業を通して、理念の理解を深め、法人・ユニットの理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時にお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、出来るだけ参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流がある。	盆踊りや公民館祭り、町ぐるみ大掃除などの地域の行事に積極的に参加している。事業所が主催する「悠悠苑まつり」は、模擬店を出したり、利用者のカラオケや職員の余興を披露して、地域の人々とのかかわりを深めている。近隣の保育園の招待で園児のおゆうぎを見たり、子供見守り隊の活動は、利用者の楽しみと励みにもなっている。民謡の会などのボランティアの訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設のデイサービスを窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られた時に案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をさせて頂く機会がある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑のあり方等を検討、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に1回開催している。利用者の状況、行事や事故、職員の研修や異動、外部評価結果などの報告を行い、意見や要望を受け、話し合いをしている。目標達成計画に掲げた「消防署職員の運営推進会議への参加」は得られなかったが、参加者から地域の消防団に声かけをしてみてもとの代案が出され検討している。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）	市の生活福祉課とは、利用者の状況の変化を報告し、相談をしている。2か月に1回のグループホーム連絡会や市の介護事業者が集まるシステム会にも参加して、困難事例の検討発表会や研修、情報交換を行っている。市の介護相談員を招き、利用者の話や相談を聞いてもらっている。	
---	---	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。万が一、行う場合は、緊急に委員会を開き検討する。	身体拘束をしないケアを実践している。玄関・ユニット間は、夜間を除き施錠していない。利用者が「帰ろう」と言ったり、様子が落ち着かない時は、職員間で連携をとり、見落としのないよう見守りをしている。ユニット会議で「利用者が一人で外出した場合」の手順を話し合い、必ず携帯を持参して一緒について行くことなどを定めた。見守りの方法を徹底し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待について学ぶ機会を持ち、職員に周知し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座受講生の体験活動の受け入れをし、終了後も交流を持ち学ぶ機会を持っている。地域福祉権利擁護事業の制度を1名、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定の際は、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き入れ毎日の生活に反映させている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。	今年度の家族会は、運営推進会議、食事会と併せて開催し、職員が利用者の介護についての取り組みを発表して、意見や要望を聞く場面を作っている。家族の面会時には、利用者の様子を伝え、話し合っている。玄関に意見箱を設置しているが、これまで意見や苦情はなかった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	評価シートの本人評価・面接等を行っている。ユニット会議に参加し、把握に努めている。	ユニット会議や年に2回の個人面談で意見や提案を聞いている。リーダーは、職員それぞれの意見を聞き、ユニットの意見として集約し、運営会議に持ち寄って話し合っている。管理者は、日常業務の合間に積極的に話しかけながら意見を聞くようにしている。備品の購入や利用者のケアに関する意見や提案が出され、取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートの本人評価・面接等、運営会議・ユニット会議に参加し、把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年1回、関連グループでの事例研究発表会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の相互研修・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞く場を常に設け、共感し、不安を解消するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の話・介護経過をよく聞き、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、自分でして頂き、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、電話をする機会を作る、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ本人から電話を掛けたり、友人・知人へ手紙を出したりしている。行事開催のお知らせ等を通して、面会の機会を作っている。	入居時のアセスメントや、その後の家族、利用者の話を聞き、馴染みの人や場所を把握している。家族への電話、時候のあいさつや年賀状、手紙などを出す支援をしている。友人が、毎月のように面会に来る利用者や、親戚が迎えに来て外泊する利用者がある。近所に住んでいた利用者は、買い物に出かけた時に友人に出会えることを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。落ち着く場所の提供・レクレーションへの参加を通して関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思の確認を行い、意向に添った支援が出来るよう努めている。	日頃から、利用者との会話や家族の話から、利用者の思いや意向の把握に努めている。事業所や職員の都合で決めつけをせずに、利用者に問いかけをして意思を確認している。利用者の笑顔が出る場面など、日常のケアで気がついたことはケア記録に残し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	介護計画は、担当者が報告した利用者の様子や目標の達成状況をもとに、職員全員でケアカンファレンスを行い、家族や必要に応じて医師の意見を参考にしながら作成している。通常は、6ヶ月ごとに見直しをしているが、身体状態の変化が著しい場合は、随時見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活用している。また、他ユニットとの交流を深め、支援に役立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、公民館・公園等に散歩に出掛けている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により内科・心療内科・皮膚科・歯科等、適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携も取っている。	事業所の協力医である内科、歯科は毎週、診療内科は隔週、皮膚科は随時往診がある。これまでのかかりつけの心療内科医を希望する利用者もあり、訪問診察に来てもらっている。月に2回訪問する看護師とは、24時間の連絡体制が取れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。週1回、看護師の出勤があり、情報を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報交換を行っている。また、お見舞い時・退院時に病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にし、管理者・看護師を中心に対応を検討している。	家族には、「重度化した場合における対応に関する指針」で、医師や医療機関との連携体制や看取りに関する考え方、家族との話し合いや意思の確認の方法などを説明し同意を得ている。重度化した場合は、管理者、職員が同席し、協力医から家族にわかりやすく説明をしてもらっている。三者で話し合いをしながら方針を共有している。水銀血圧計の使用方法など医療面での研修の他に、ユニット会議で、看取りに対する具体的な話し合いを行い、職員の不安の軽減を図りながら支援の体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際、指導を受けている。救急法等の講習会に参加。個々に地域の訓練に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練は、年2回、実施している。地域との連携を運営会議の際、話し合い、避難訓練に参加して頂いている。	避難訓練は、市防災危機管理課や運営推進会議の参加者の立ち会いのもと、夜間の想定を含め、年に2回行っている。目標達成計画の一つであった地域で行われる防災訓練への参加は、昨年8月に管理者、職員2名が出向き、地域住民とバケツリレーや毛布を使った担架づくりなどを行い、技術の習得だけでなく、地域との連携を深めることができた。水や食料、利用者個々の防災頭巾を用意している。	運営推進会議の参加者だけでなく、近隣住民が避難訓練、消火訓練に参加するなどして、引き続き取り組みをされるよう期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に努力はしているが、完全ではない、職員間で注意しあい、声掛けの工夫が必要と思われる。	事業所には「尊厳を大切に」という理念があり、職員は、自分が提供するサービスについてそれぞれの目標を立てて、理念の実践に努めている。馴れ合いにならないように利用者の呼び方は、家族に確認したうえで、「さん」づけで呼ぶようにしている。ユニット会議では、利用者への言葉かけの内容や語調をお互いに批評し合い、確認と改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるように対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、本人のペースを大切に对应しているが、十分ではない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。声掛けの工夫をし、更衣の促しを行っている。また、清潔保持が出来るよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。	週の5日間は、カロリー計算のされた献立・食材を業者に委託している。日・月曜日は、利用者とメニューを相談し、一緒に食材の買い出しに行っている。調理や盛りつけ、食器ふきは、職員が声かけをしながら共に行い、同じ食卓で、同じものを食べている。時には、利用者からの希望が多い回転寿司に出かけたり、出前を取ったりして楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。一人ひとりの状態を把握、記録し統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている。歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄能力・排泄パターンを把握している。声掛け・誘導している。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミングを計った誘導で、トイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレを利用したり、鈴を鳴らして職員を呼び、介助を求めたりできるようにしている。自立の利用者とは、羞恥心に配慮して、隠語を使って排泄状況を知らせてもらい把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めずに希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	入浴日・時間は決めていないが、原則として最低でも週に2回は入浴するようにしている。毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。入浴をしたがらない利用者には、声かけの内容、時間、対応する職員を代えるなどの工夫をしている。以前は、安心感を持ってもらうために、家族と一緒に入浴してもらうなどをしていただいていた利用者がいたが、現在は職員の対応で入浴できている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。年齢と共に外出する機会は減って来ているが、行事・レクリエーション・音楽・散歩等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等外へ出掛けられるよう支援に努めている。家族会・運営推進会議等で協力を要請している。	日常的な外出として買い物や散歩に出かけている。玄関横にベンチを置き、外気浴をしながら、通りがかりの子供たちや散歩中の犬との触れ合いを楽しめるようにしている。花見、七夕、盆踊りなど季節に沿った行事に出かけている。誕生日には、利用者の希望する買い物や本屋に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理している。小銭を管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等の理解の下、電話をしたり、手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。	食堂、居間の床は、フローリングの上に畳を敷き、足を延ばして座ったり、横になったりできる居心地のよい空間となっている。トイレは2箇所あり、その内の1つは、直接浴室に行けるようになっている。廊下には、職員の顔写真や、外出時の写真が貼られている。利用者が庭に咲いているツツジの花を手折り、花瓶に生けていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所がある。 居室・外ベンチ等		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。	居室は、利用者の使い慣れた家具やテレビを持ち込んでいる。居室に畳を入れ、和室として使っている利用者もいて、その人らしく自由に居心地のよい居室づくりをしている。最近は地震に備え、安全面に配慮して、家具の配置を変えたりしている。感染症予防のため、家族に依頼して各居室に加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置をおこなっている。		